

災害支援現地レポート

～「水源の里」米原市から「水源の里」相馬市へ～



4月6日 米原市職員撮影

「水源の里」の同志・相馬市へ

相馬市は、米原市と同じく「全国水源の里連絡協議会」に加入している人口約38,000人のまちです。

米原市としても、水源の里の復興という同じ目的に向かってまちづくりを進めている同志を支えようと、相馬市へ支援物資を届けることにしました。

市民のみなさんの善意の絆を積みこんで

出発は4月5日。事前に相馬市が必要としているものを確認し、市民のみなさんから提供いただいたお米を約5・6トン、多和田の製綿会社から提供いただいた布団を約1,000枚、商工会のあっせんで調達したカップめんを4,700食と缶詰1,000缶、その他に飲料水や折りたたみポリタンクを2台のトラックに積み込みました。

また、放課後児童クラブのみなさんからは、被災地の復興を願って折られた千羽鶴を託され、市の職員4名と社会福祉協議会の職員1名が、現地へと向かいました。

復興への力強い意志

4月6日、現地に到着。テレビや新聞などで被災地の状況は報道され

ていますが、実際に現地に立ち、果てしなく広がるがれきの大地を現実の空間として目の当たりにしたときには、ただ立ちつくすしかありませんでした。

立谷相馬市長に面会してお話を伺ったところ、放射線などの影響で集団避難をしている南相馬市民の受け入れを含めて、約2,000人が避難所生活を送られているとのこと。県を経由した物資の配布は遅滞しているほか、放射線漏れに対する不安が物流をストップさせてしまうなど、歯がゆい思いをされており、市長は米原市に対して直接的な支援を求めておられました。

一方、復興のための労働力として仕事を失った市民の力を活用するほか、風評被害を受けている農作物の地元消費を進めるなど、地域の再生に向けた職と食の「地産地消」的な



農地の4割が海水に浸かるなど、被害の甚大さがうかがえます。

考え方を示されたことが印象的でした。これは、犠牲者や市民の命を守るために殉職された消防団の方のためにも、自らのまちを市民の力で立て直していこうという、強い意志のあらわれだと感じています。

さらに、市長からは「米原市の皆様のご厚情に、心より御礼申し上げます」との礼状をいただき、くれぐれも市民のみなさんによるしくお伝えくださいますことでした。

継続的な支援につなげて

今後、被災地が復興に向けて取り組まれていく中で、時間の経過とともに必要な物資は変化していきます。米原市としても、継続的に支援していきたいと考えていますので、市民のみなさんのご理解とご協力をお願いします。



相馬市長にみなさんの気持ちをお届けしました。市長は消防法被をまとい、陣頭指揮をとられています。

お問い合わせ

市民部 市民安全課（近江庁舎）
☎5252-6030 ☎5252-6930

お願い

今後、米原市では被災地の状況を確認しながら、要望にあわせた支援を行っていきます。被災地への個人的な物資の送付は、かえって混乱が生じる場合があります。詳しくは福祉支援局までお問い合わせください。(☎55-8110)